

単元到達度評価問題は、全国学力・学習状況調査の出題内容に準じた問題から構成されています。5月から1月の問題については15分程度で解答できるもの、2月の問題については1単位時間（45分）で解答できるものとなっております。



【活用例1】問題を事前に確認し、PDCAサイクルを回して日々の授業改善につなげる

P

「5分間ミーティング」で指導事項の確認

○年生の次の単元は「〇〇」ですね。
問題を見ながら、**5分間**ミーティングをして、**指導事項を確認**しましょう。



単元が終わる
ころには、**こんな問題が解ける力が児童に付く**ように取り組んでみよう。

○年生では、その
単元につながる
学習をしていますよ。**既習事項についても確認**しておくといいですね。



D

日々の授業で指導事項を徹底



ねらいに応じた適用問題を設定して、毎時間意識しながら**確実に実施**してみます。
この単元につながる**下学年の問題も提示**してみます。



効果のあった指導や適用問題は、**学年で共有**しましょう。

実施後は、問題の**数値を変えて繰り返し活用**しながら児童の力を伸ばすのも良いかもしれませんね。

A

課題をもとに授業改善・補充学習

課題については、補充で学習する時間をとりましょう。また、各学年に考えてもらった指導改善のポイントを回覧しますので、ぜひ参考にしてください。



私は、『普段の授業から、理由を説明する習慣を付けることが必要』と考えていたけれど、○年生はもっと**具体的に指導改善のポイントを**考えているな。算数主任に相談してみようかな。



C

単元到達度問題を実施し、結果を分析

採点をサポート



採点してみると、子どもたちのつまずきや課題がよく見えてきます。**課題を共有**し、該当部分における自分たちの**指導を振り返り、指導改善のポイントを出し合**ってみましょう

課題の多かった問題を見ると、様々な形が組み合わさった模様の中から円を見付けることが困難だということが分かりました。



そうすると、**普段の授業から、複雑な模様の中から円を見付けたり、直径や半径の位置を確認**したりする活動を行うことが必要ですね。



【活用例2】単元到達度評価問題の解答ページを活用し、授業づくりに生かす

単元に入る前に、各学年に問題と解答を配布しよう。その時に、**解答に書かれているポイント欄を読んでもらう時間をとり**、この単元で大切にしてもらいたいことを授業者に確認してもらおう。

算数主任

(例)

学力目標到達点 7点

第3学年(6月) わり算

1 つぎの計算をしましょう

(1) $56 \div 7$

(答え) 8

(2) $84 \div 4$

(答え) 21

除法が用いられる具体的な場合として、大別すると次の二つがあります。

- ①ある数量がもう一方の数量の幾分であるかを求める場合 (包含除)
 - ②ある数量を等分したときにできる一つの大きさを求める場合 (等分除)
- 包含除と等分除を比較したとき、包含除の方が操作の仕方が容易であり、「除く」という意味に合致します。また、「割り算」という言葉の意味からすると等分除の方が理解しやすいといえます。除法の導入にあたっては、これらの特徴を踏まえて取り扱うようにする必要があります。

とっとり学力・学習状況調査との関連を分かりやすくするため、「レベルの目安」として、4年生以上の問題には『**梨レベル**』が示されています。🍐🍐
詳しくは、実施要項が各校に配布されている冊子で御確認下さい。

※単元到達度評価問題は、4月に学校業務支援システム(C4th)を通じて、各校へデータ配信しています。また、Google Classroomでも問題が確認できます。各校の結果報告を受け、「結果集計・指導改善のポイント」を、クラスルームのストリーム上に情報提供しておりますので、御活用ください。
【クラスコード:xxkj7jt】 ~@g.torikyo.ed.jpのアカウントで入室してください。

